

第2学年 社会科学学習指導案（歴史的分野）

1 単元名 日本開国と欧米のアジア進出 ～幕末までを見る中で日本は開国すべきだった？～

2 単元について

- 現代のように、グローバル化が進んでいく一方で、若者の政治離れをはじめ、あらゆる社会事象への関心の薄れが懸念されている。そこで生徒にしっかりと社会的な見方や考え方を身に付けさせ、社会へかかわろうとする態度を養いたいと考える。それにより、これからの日本の在り方を考えることができる社会の形成者となってくれることに期待したい。

本単元では、日本の開国と欧米のアジア進出を扱う。ここでは、1853年アメリカ東インド艦隊司令長官のペリーが4隻の軍艦を率いて浦賀に入港したところから始まり、1854年の日米和親条約、次いで1858年の日米修好通商条約を結ぶこととなる。諸外国に領事裁判権を認め、日本に開税自主権がないなどの不平等な内容は、その後の日本を苦しめる結果となり、長い歳月をかけて不平等条約の撤廃と回復に努めることとなる。歴史的分野において、時代をさかのぼり、その時代の人々の気持ちになって議論をすることは難しい面がある。しかしその当時の様々な場面に生徒自身が身を置き、当事者的立場になって判断を行う学習活動に取り組んでみたい。その際、個人の感情や思いつきで主張するのではなく、根拠に基づいて主張させ、より適切な判断をさせたい。また友人の意見を聞いて自分の意見と照らし合わせることで社会的な見方や考え方を深めさせたい。

- 本学級の生徒は、小学校6学年の歴史学習において、ペリーの来航や不平等条約については学習してきている。しかし、小学校では、歴史の大まかなの流れやそれぞれの時代の特徴を学習することが主となるため、本単元においては、生徒が習得している知識と当時の時代背景や世界の様子などを関連付けながら指導していく必要がある。

本学級では積極的に発言したり自分の意見を述べたりすることに苦手意識をもっている生徒が少なくない。そこで、普段から一斉授業を行う中で、グループ学習や意見発表をする時間をできるだけ多く設けた。また、基礎的な知識を身に付けさせるために、課題プリントや確認テストを計画的に行ってきた。それにより、社会科に興味・関心を示す生徒も少しずつ増え、授業においても発言する生徒が増えてきた。

- 指導に当たっては、開国から江戸幕府の滅亡に至るまでの過程を、欧米諸国の動きと関連して理解させる。その際、様々な資料を活用して、開国後の貿易のようすや影響を読み取り、日米修好通商条約の内容や開国後の日本の変容について、当時の世界情勢も踏まえさせたい。その上で日本にとっては「鎖国の維持」と「開国」のいずれの方針をとっても、メリットとデメリットが生じることを知り、それぞれの方針について多面的・多角的に考えさせたい。

3 単元の総括目標

ペリーの来航と日本の開国に至る経緯やその影響に対して関心を高め、当時の国際情勢の中で多面的・多角的に考察して「開国すべきだった？」かどうか追究させたり公正に判断させたりする。また、開国後の貿易の様子や影響について資料から読み取らせ、日米間の条約の内容や開国後の日本の変容を当時の世界情勢を踏まえながら理解させる。

4 単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
ペリーの来航と日本の開国に至る経緯や、その影響に対して関心を高め、意欲的に追究	ペリーの来航と日本の開国に至る経緯やその影響を、当時の国際情勢の中で多面的・多角	当時の錦絵や開国後の貿易高や物価の動きなどに関する様々な資料を活用し、開国後の貿易の様	日米和親条約・修好通商条約の内容や、開国後の貿易について当時の世界情勢を理解して

しようとする。	的に考察し、公正に判断できる。	子や影響について読み取ることができる。	いる。
---------	-----------------	---------------------	-----

5 単元の指導計画（全7時間）

	学習活動	教師の指導・支援	評価【評価方法】	時配
1	産業革命と市民革命の内容について把握し、革命がその後の社会に及ぼした影響を理解する。	○ 産業革命については、工業の進展や社会の変化を理解させた上で、資本家と労働者の状況をワークシートにまとめさせる。	・革命を理解し、社会に及ぼした影響を班ごとにまとめ、発表することができる。 【ワークシート】	1
2	欧米諸国が工業製品の市場や原料の供給地を求めてアジア進出を図った過程を調べ、その影響について理解を深める。	○ 欧米諸国のアジア進出が市場を求めた植民地化だったことを年表や資料を使い理解させる。	・アジア進出を図った過程を資料等で調べ、まとめることができる。 【ワークシート】	1
3	ペリーの来航から日米修好通商条約の締結に至る過程と、その影響について理解する。	○ ペリー来航時の幕府の様子や民衆の反応を追究させるため、ペリーの肖像画やビデオを活用し、生徒の学習意欲を高める工夫をする。 ○ 不平等な条約の内容をワークシートにまとめさせる。	・民衆の様子を資料等から読み取り、発表することができる。 【発言・ワークシート】 ・日米修好通商条約についてワークシートにまとめることができる。 【ワークシート】	2
4	倒幕運動から江戸幕府滅亡に至るまでの過程を様々な角度から考察し、理解する。	○ 薩摩藩と長州藩の動き（尊王攘夷から倒幕に至る経緯）を国内外や民衆の様子等と関連付け、考えさせる。	・生麦事件と下関砲撃、さらに薩長同盟をワークシートにまとめることができる。 【ワークシート】	1
5	開国について考える。幕末までの授業を基にして、資料やワークシートの分析を行い、1回目の意思決定をする。 【意思決定1】	○ ワークシートを準備し、生徒の主張や根拠が整理しやすいようにする。	・分析したことをワークシートにまとめることができる。 【発言・ワークシート】	1
幕末までを見る中で日本は開国すべきであった？				
6	前時の分析を基に、「開国すべき」と「開国すべきでなかった」それぞれの立場から班で理由や目指す社会像を出し合い、	○ 自分の意見の変容や深化した点に気付かせる。 ○ 友人の意見にも耳を傾けるように、大切と思うことをワークシートに記入させる。	・自分の意見を根拠を基に主張することができる。 ・ワークシートの「これからの日本」につ	1 本時

自分の意見を深化させて、2回目の意思決定をする。 【意思決定2】		いて自分の考えを書くことができる。 【発言】 【ワークシート】
--	--	---

6 本時の目標

意見交換を通して、「開国すべきだったかどうか」について、当時の時代背景やその後の影響を基に考えることができる。

【社会的な思考・判断】

7 本時の展開 (7/7)

学習活動	教師の指導・支援 (○) と 【評価】								
1 前時までの活動を振り返り、本時の学習内容を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">幕末までを見る中で、日本は開国すべきであった？</div>	○ 前時に活動した内容を簡単に黒板で確認する。								
2 1回目の意思決定を発表する。 3 意見交換をする。 4 2回目の意思決定をする。	○ 前時の意見交換を受けて、各自で調べたことも含めて発表させる。 ○ 対立する価値の正当性や重みを考え発表させる。 ○ 疑問に思うことや納得がいかないことなどを考えさせて意見交換を活性化させる。 ○ 議論がかみ合わないときは、論題を再確認させる。 ○ 今までの学習を振り返って、自分の意見をまとめさせる。 ○ 数名に自分の選んだ主張を根拠も含めて発表させる。 <div style="text-align: center;"><予想される意見></div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">開国すべきだった</th> <th style="width: 50%;">開国すべきでなかった</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 日本国内が混乱する (アヘン戦争の二の舞)</td> <td>○ 不平等な条約を押しつけられる。</td> </tr> <tr> <td>○ 外国の進んだ技術や文化が入ってくる</td> <td>○ 物価の高騰</td> </tr> <tr> <td>○ 日本が植民地にされる</td> <td>○ 金の海外流出</td> </tr> </tbody> </table> ○ 分析した資料と周りの意見を参考に、2回目の意思決定をさせる。 【評価】	開国すべきだった	開国すべきでなかった	○ 日本国内が混乱する (アヘン戦争の二の舞)	○ 不平等な条約を押しつけられる。	○ 外国の進んだ技術や文化が入ってくる	○ 物価の高騰	○ 日本が植民地にされる	○ 金の海外流出
開国すべきだった	開国すべきでなかった								
○ 日本国内が混乱する (アヘン戦争の二の舞)	○ 不平等な条約を押しつけられる。								
○ 外国の進んだ技術や文化が入ってくる	○ 物価の高騰								
○ 日本が植民地にされる	○ 金の海外流出								
5 本時の学習を振り返る。 6 これまでの学習を振り返り、これからの日本がどうあるべきか考え、ワークシートに書く。	○ 自分の意見の変容や深化した点に気付かせる。 ○ 時間に余裕をもたせ、自分の意見を書けるよう配慮する。								

8 本時の評価

評価規準	意見交換を通して、「開国すべきだったかどうか」について当時の時代背景やその後の影響を基に考えることができる。 【社会的な思考・判断】		
評価の基準 → 支援	A	B	C
	両方の主張を多面的・多角的に考察し、客観的な根拠を基に、幕末の開国について考えることができる。	客観的な根拠を基に、幕末の開国について考えることができる。 →多面的・多角的にとらえさせる。	Bに達していないもの (例) 客観的な根拠に基づかない考えになっている。 →根拠を基に考えることができるように資料の読み取りなどをさせる。
評価方法	ワークシート		